

農業科の教員免許を取得して

農学系学部で教職課程の履修を検討している皆さんへ

# 農業高校の先生

## になりませんか!!



About

### 01

## 農業高校について

令和3年5月1日現在、全国農業高等学校長協会の会員校（農業に関する学科を設置している学校や総合学科高校において農業に関する系列を設置している学校等）は全国に370校あり、生徒数は81,635人です。

高等学校において普通科等を卒業された皆さんには農業高校については馴染みがないかもしれません。事実、高等学校の普通科で学んでいる生徒は全体の73.1%に対して、農業科で学ぶ生徒はわずか2.4%です（令和3年度）。農業科などで生徒の学習指導などにあたっている教諭等は全国で3,500名ほどです。

農業に関する分野は幅広く、農業、園芸、畜産、食品科学、農業土木、農業機械、造園、林業、生活科学、農業経営、生物工学などに関する学科が設置されています。

現在大学で学んでいる専門性を活かしたり、新たな分野に挑戦したりできるという意味でも多様な学科があるのが農業高校の特徴の一つです。



About

### 02

## 農業高校での学びについて

令和4年度から年次進行で始まる新しい学習指導要領では、安定的な食料生産の必要性や農業のグローバル化への対応など農業を取り巻く社会的環境の変化を踏まえ、農業や農業関連産業を通して、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人を育成することを目指しています。

農業や農業関連産業では、農業に関する個別の知識や技術を相互に関連付け、具体的に農業や農業関連産業に応用することが求められています。総合科学としての農業のダイナミズムがあり、地域課題の解決や地域資源を活用した新たな商品の開発など、地域とともにあるのが農業高校と言えます。

Society5.0の時代を迎え、農業に関する分野でもAIやIoTなどの農業ソリューションを活用したスマート農業が展開されており、農業教育の現場での活用が開始されています。これらの学びを通した新しい価値（イノベーション）を生み出す人材がますます求められるようになり、皆さんの関わりによる生徒の育成が期待されます。



Become a teacher at an agricultural high school

## About 03 学校農業クラブ活動について

「学校農業クラブ」って、一体何の事?と思われるでしょう。農業高校生の間では、「農業クラブ」とか「農ク」、「FFJ」と呼ばれています。(令和元年NHK朝ドラ「なつぞら」でFFJが有名になりました。)

もともとは昭和時代の戦後、アメリカから入ってきたもので、「School Agricultural Club」を直訳したので、「学校農業クラブ」となりました。クラブと名が付いていますが、学習指導要領に位置付けられた教科内活動です。農業学習を通して、生徒の自主性・主体性を育む活動です。食料生産、環境の保全・創造、地域の創生・活性化、さらにはSociety5.0の時代に必要とされる「問題を発見し、課題を設定し解決する力」を育むことができる活動が農業クラブです。生徒の能動的な活動により変容や成長が顕著に見られます。皆さんも農業科の教員となって生徒とともに取り組んでみませんか。

毎年秋には「農業高校の甲子園」と呼ばれる全国大会が開催されています。(令和4年度は石川県・富山県・福井県の共同開催、令和5年度は熊本県、令和6年度は岩手県での開催予定。)

日本学校農業  
クラブ連盟  
(FFJ) HP



<b>全国大会のようす</b> 画像提供: ©農文協プロダクション	<b>意見発表会</b> 	<b>農業鑑定競技会</b> 	<b>家畜審査競技会</b> 	 ▲ FFJ ロゴ
	<b>平板測量競技会</b> 	<b>プロジェクト発表会</b> 	<b>大会式典</b> 	

## About 04 農業高校の魅力について

農業高校に勤務する20歳から30歳の若手教諭に農業高校の魅力について調査を実施しました。

「農業科の教員になってよかったこと」では、以下のような意見が寄せられました。



知識だけでなく専門科目における技術力を求められる仕事なので、自らの技術面の向上にやりがいを感じる。	実習などは少人数の班編成であるため生徒との距離が近く、生徒の成長を間近で見守ることができ、教員としてのやりがいを日々感じられる。	魅力ある農業に携わり、農業を教材として生徒との関わりを深めることができること。農業を通して生徒の興味・関心を高め、学力を伸ばすことができたこと。将来農業に携わりたいと思う生徒が出てきたこと。	農業という、ヒトの発展に深く関係する分野について学び、教えることは、私の人生にとって大きな財産になっていると感じている。農学はともおもしろい学問であり、これからも学んでいきたい。
生徒達が農業に対して素直に向き合い、楽しそうに学んでいる姿を見たり、進路実現に繋がったりした時などは教師冥利に尽きる。	仕事にやりがいを感ぜられること。自分が学んできたことが活かせること。多くの生徒や保護者、教職員と関わりがもてること。卒業生が各地で活躍して頑張ってくれていること。	「課題研究」や農業クラブ活動、実習などが多く、普通科にはない活動に感じられること。自分が好きな植物と常に接しながら仕事ができること。	全国農業高等学校長協会ホームページで他のコメントもご覧いただけます。

「農業高校の先生になるう」ページ



教職課程の免許として「農業科」も取得してください!!

全国の農業高校で一緒に生徒を育てましょう!!

農業科教員の生の声を聴くことができるサイトもあります。ご覧ください。



栃木県高等学校教育研究会  
農業部会 HP  
「教員免許を取得しませんか」

発行人

全国農業高等学校長協会理事長

並川 直人

(東京都立園芸高等学校長)



全国農業  
高等学校長  
協会HP